



代表幹事 平田 賢太郎

〒510-0954 三重県四日市市采女町 430-3

平田技術士・労働安全コンサルタント事務所

プロセスインテグレーション(株)代表

TEL 059-346-8818

FAX 059-346-8818

巻頭言

これからの三重県技術士会



三重県技術士会代表幹事

平田 賢太郎

(化学部門)

会員の皆様、お元気でお過ごしのことと思います。皆様のご協力のお蔭を持ちまして平成25年度の事業を無事終

了、この間の問題点・課題を顕在化、総会の結果を平成26年度計画に反映させることが出来ました。ここでは、平成26年度事業計画の背景につきレビューしました。

問題点1) 会員数漸減への対応

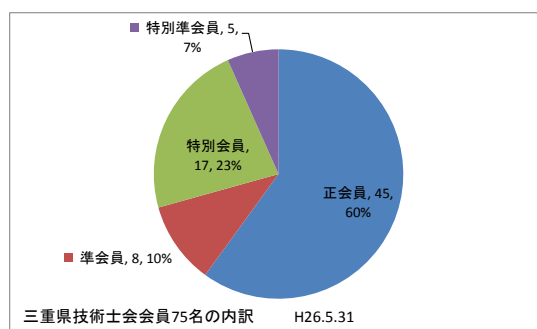


図1 会員75名の会員種類内訳

図1に示しますように、現時点の会員数は75名と、漸減しております。この中で公益社団法人日本技術士会の会員は53(=45+8)名です。図2、図3に三重県における日本技術士会の会員内訳を其々、正会員、準会員につき示しますが、合計156(=116+40)名の方がおります。この中で三重県技術士会への非会員は103(=71+32)名となります。

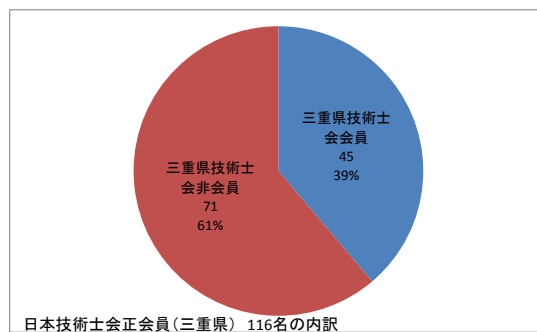


図2 三重県の日本技術士会正会員

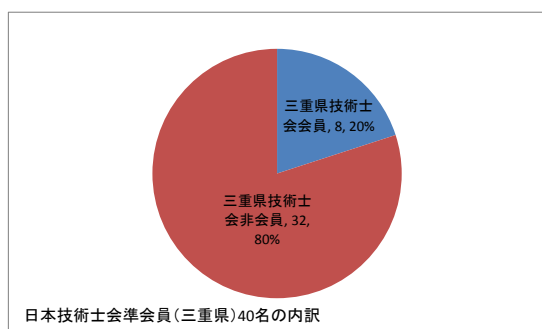


図3 三重県の日本技術士会準会員

二つの問題点を指摘させていただきます。

- ・三重県技術士会は、日本技術士会より運営予算の一部を負担いただいているが、日本技術士会の冠名称を許可されないという不幸な状況にある。このままで行くと、運営予算もつかず、孤立化することは明白である。

- ・日本技術士会会員でありながら、三重県技術士会の活動に参加されていない会員が多数おられることも事実であり、看過できない状況にある。

現時点で特別会員の方々には、日本技術士会へ入会いただいた上で、全ての日本技術士会会員を組み入れて、地域隅々まで活動を浸透・活発化していくことが不可欠です。日本技術士会中部本部三重県支部設立の母体となることを強力に推進していきます。

なお本件（三重県支部設立・三重県技術士会発展的解散）につきましては昨年12月に会員のアンケートをとりましたが、図4に示しますように、圧倒的多数で賛同されてきております。

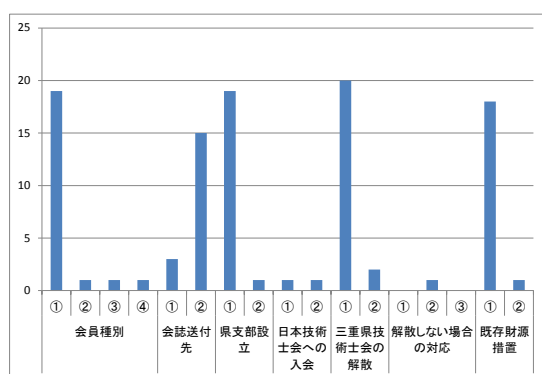


図4 三重県支部設立へのアンケート結果

問題点2) 人材バンクの設置状況

ビジネスにリンクするようしくみの付与として、企業等を退職した会員には、具体的ビジネスの機会をそして企業等在職中の会員には将来のビジネス上の夢を与えるしくみを、三重県技術士会に構築する必要があると考え、図5に示す人材バンクを構築し、運転開始しました。登録番号、専門分野、技術士部門、その他の主要資格、主要業務経歴、コンサルタントとしての実績・受託業務内容、語学につき記述し、人材バンクに登録し、ホームペ

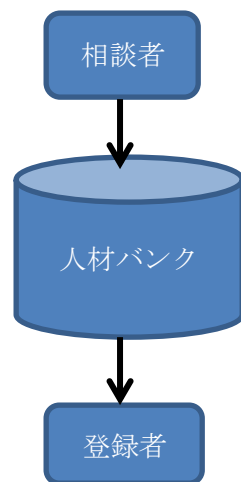


図5 人材バンク構築の概念図

ージを通して、公開しました。相談者が登録者と直接やりとり可能となり、ビジネスへの繋がりを会員に提供しています。また

会員同士は知っているが、その人が本当に何が出来かとはあまり知られてないのが現実です。この人材バンクへの登録を、一人でも多くの会員が実施することをお願いします。

問題点3) 例会、テクノカフェ等の会員講師選定への対応

極力、前広に依頼することにより、講師の負担を和らげ、的確な演題設定が可能となるよう配慮しております。約半年位あれば、構想も練れ、作業も円滑に進むことと思います。これら労力に対して若干の報酬を提供することで活発なプレゼンを期待するとともに、遠路から参加の旅費にも充てていただくこととしております。

問題点4) スピードと役割分担対応

執行部では、各役割分担を前広に捉え得るよう具体的使命を割り振りました。情報を前広に流し、役員会では仕上げを行うよう工夫しております。

問題点5) 顧客の創成と事造りが不十分また20年後のありたい姿を思っているか。

経済学者のドラッガーによれば、行動基準には顧客を明確に設定・意識することが重要です。我々の顧客は誰なのか、各事業毎に明確に設定されねばなりません。会員一人一人は無論、中部本部、統括本部を、そして地域社会の人々を顧客と認識したく思います。また、20年後のありたい姿を思ったとき、課題は比較的簡単に見えて来ます。そのための行動計画を設定する必要があります。以上5点記述しましたが、これらの背景を以下に記述した平成26年度基本方針に反映させました。



図6 総会の模様-4月19日、津

平成26年度三重県技術士会活動方針

1. 基本方針

- 1) 会の理念に基づき、技術士が可能な社会的貢献を目指す。
- 2) 県支部設立を目指し、会の組織力向上を図る。
- 3) 会員の継続的研鑽を図り、思いを反映する。
- 4) 会員間、諸団体とのネットワークを拡大する。
- 5) 役割を明確化し、全員参加により会の活性化を図る。
- 6) 顧客を創成し、事造りへチャレンジする。ー20年後のありたい姿を思い、10年間の行動計画を考察

2. 具体的活動指針

- 1) 社会貢献を図るために、当技術士会の活動を通して、防災分野はじめ積極的に技術士活動の紹介を対外へ行う。
- 2) 総会1回、例会4回を開催し、各種情報提供、会員相互の情報交換・親睦を図る。
- 3) 会員による技術紹介を主とし、企業等の講演により研修を充実する。
- 4) 三重県内外企業の工場、工事現場等の

見学会を年2回実施し、見聞・見識を広げ、かつ深める。参加者の拡大を図る。

5) 会報の定期発行(年3回)により会員への情報提供及び会員間の情報交換を図る。

6) 外部からの技術相談、業務委託に積極的に対応する。

7) 三重県技術士会のホームページを適宜更新し、充実を図る。

8) 理科支援特別講義への積極的な参加を行う。登録者の拡大を図る。

9) 新合格者へのアプローチ及び会員の紹介等による新会員増強を図る。

10) IT研究会の定着化および推進を図る。

11) みえテクノロジーカフェの定着化および推進を図る。

以上

平成25年度第2回

見学会結果

日時：平成26年 3月14日(金)

13:00～17:00

参加人数 12名

見学場所 〔1〕三菱電機(株) 稲沢製作所
〔2〕名古屋市五条川工場

今回の見学会は、役員会にて見学希望が多かった、三菱電機社の見学をアレンジして、そこから短時間で移動可能なインフラ系の名古屋市の五条川工場を見学する事としました。

〔1〕三菱電機社の稲沢製作所は、同社「昇降機のマザー工場」です。まずは、稲沢製作所の概況説明(DVD視聴)を受けました。同所の主要生産品目は「エレベーター」「エ

スカレーター」「ビルマネジメントシステム」であり1960年の設立、エレベーター・エスカレーターの専門工場です。現在海外生産拠点が11箇所あり、そのマザー工場として、巻上機や制御盤基板など製品品質を左右するキーパーツを一括生産し、海外の製造会社へ供給しているとの事です。そして、その技術開発拠点でもあります。



続いて、同社の誇るエレベーター試験塔「SOLAE」(建物高さ/173.0(イナザワ)m)に案内戴きました。当日は、大変風が強かったが好天気で、濃尾平野が良く見渡せる最上階まで見学しました。

試験塔の最上階には、制振装置が設置しており、丁度帰ろうとしていた時強風が吹きめったに見る事が出来ない、装置の作動を見る事が出来ました。

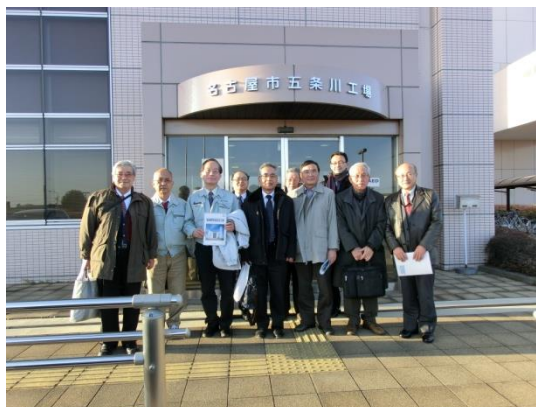


ショールームではエレベーターの仕組みや最新技術の紹介受け／さまざまな用途向けの展示などを視察して、工場入り口ではスパイラルエスカレーター見てから板金工場、機械工場などを視察しました。

2時間の見学時間はあっという間に過ぎてしまい少し時間オーバーで次に移動です。



〔2〕名古屋市五条川工場は、あま市の五条川の川原に建設（竣工平成16年）された、環境に配慮した最新システムの焼却工場です。工場長から、五条川工場の全容の説明を受けてから、設備を視察しました。工場全体が、五条川の川原に多数の柱で支えた床構造の上にあり、床下は調整池が特徴です。名古屋市のゴミ出し分別は、そこで焼却場の大型ごみピットの中で混ぜ合わせてから大型クレーン（一掬い約10 Ton ?）で、ストーカ炉に投入されます。一連の設備は、ブロワーで吸引負圧になっておりその空気は、燃焼用に使われています。それによって臭気を設備外に出さない構造も特徴です。更に、名古屋市では初めての灰溶融炉を設備しており、1 Ton の灰から5 g ほどの金が取れる時もあるとか・・・で、都市鉱山を目の当たりに見させて戴きました。



前の視察が予定より長くなり、本工場への到着が少し遅れて、見学時間終了の17時まで目一杯視察させて戴きました。

見学会参加の皆さんには、もう少しじっくりと視察したかったとの思いもあったかと反省する次第・・・

以上（山口昇吾 記）

第8回みえテクノロジーカフェ

堀 豊（化学部門）

～高分子ってなんだろう～

開催日：平成26年4月6日

参加人数：14名

テーマの選定：私の専門分野が高分子製品であることから、高分子に関しての理解と興味を持っていただけるような内容としたいと考えました。また、会場を提供していただいております理科実験スクール「タートル」の特徴を生かすために、親子体験講座としました。

参加者募集：認知度の低いテーマであり、親子の参加者が集まらなければ話しにならないため、中学3年生の息子との親子講師で皆と一緒に実験を行い「理系親子」になりましょう！との案内文で参加者募集しま

した。また息子との共同作業であり互いに勉強になると思いました。

カフェ内容：パワーポイントは受動的になると考え、最初の自己紹介使用にとどめ、実演・実験が主体でビジュアルな体験を通じ理解を深め興味を持っていただこうと考えました。また場の雰囲気も大事と考え、服装は化学実験に合わせ、親子で白衣を着用しました。また安全第一に配慮しました。



原子→低分子→高分子と変化すると何が起ころのだろうか？

すべての物質は元素からできていること。原子の大きさ、重さ、原子が持つエネルギーを例えと元素周期律表を用いて説明しました。

低分子の性質は分子模型とガラス管内に封入されたエーテルの温度差で動く水飲み鳥のおもちゃで説明しました。



本カフェのポイントである**低分子→高分子の性質**は石けん分子と高吸水性樹脂の水中での性質のちがいに関する比較実験を行い説明しました。

高分子の物性としておもりをつけた輪ゴム・ビニルテープはお湯の中に入れると伸びるか縮むか？の実験を行いました。



最後に科学技術はおもしろいな！わくわくする なぜなんだろう？ 驚き、仕事にあこがれの気持ちを持つことが大事です。好きなことを見つけ夢中になってください。教科書にかかれている1行は人の一生をかけた人類の宝物です。あきらめないこと失敗は成功のもとです。友だちをたくさんつくり将来好きな仕事につくため一生懸命勉強して、大人になって勉強したことをみんなのためになるように生かしてください。と締めくくりました。 以上

第9回 みえテクノロジーカフェ

～錆のはなし～

(平成26年5月25日、於：タートル)

西方伸広 (機械部門)

第9回のテクノロジーカフェ講師を担当

させていただいた。当日は、技術士 8 名ほどと中学生 1 名、およびお世話いただいているタートルの方 1 名で、終始和やかに進められた。本報では、第 9 回のテーマ選定の理由、準備事項、当日の進行について述べる。



<金属板の材質についての議論の様子>

(1) テーマ選定理由

現在の日本は豊かな社会を形成している。豊かさには物質的側面と文化的側面があると思うが、物質的側面を捉えれば間違いなく世界有数の豊かさである。道路橋などの大規模構造物、電気などのインフラ設備、便利な移動機械、通信機器、これらには非常に多くの金属材料が使われている。金属は強くてしなやかで加工がし易いといった優れた特性を持っているが、環境中で腐食する弱点を持っている。この弱点を補いつつ巧く使っていく必要がある。技術は朽ちないが材料は錆びていくという事実を今一度認識し、日本が築き上げてきた豊かな社会を後世に引き継いでいくにはどうすればよいのかを思う一つの契機にしたいと考えた。

(2) 準備

技術者として日常慣れ親しんでいる材料

の腐食に対して、改めて知識を整理することから始めた。錆に関する一般向けの良い書物も売られているので、それも参考にさせていただいた。

また、各種金属材料を購入し、5%食塩水を噴霧して各材料特有の錆を生じさせておくなどの準備に数週間ほどをかけた。

金属板は厚み 0.3mm のものを利用したが、金切り鋏で切断した切片は、カッターナイフの刃のように鋭利なため、エッジをビニルテープで巻くなどして、取扱う際の安全性に留意した。

(3) 当日の進行

朝 9:00 頃に会場に入らせてもらい、PC 立ち上げ、プロジェクターのセット、サンプルなどの準備をした。プロジェクターとスクリーンについては、会場のタートルさんからお借りできた。

10:00～PPT を使った講義形式の説明で開始したが、途中、金属板の材質について、クイズ形式で議論させていただくなども行った。

私としては初めてテクノロジーカフェの講師を担当させていただき、当初はテーマの選定から悩み、上手くカフェをリードできるのか心配であったが、参加者各位のご協力を得てまずまずできたのではないかと思います。今後のカフェにも協力していきたい。

平成 25 年度役員会 (第 4 回) 抜粋

日時:平成 26 年 1 月 25 日(土) 10:00~12:00

場所: じばさん三重 四日市

議事内容

1. 技術相談及び技術士業務紹介システム

の発足

HP作成した。昨年、登録5名あり。

今後会員に登録を呼びかけてゆく。

2. みえテクノロジーカフェ計画

今後の計画案（講演担当月）

7/27（中迎） 9/28（山口）

11/30（岡田） 1/未定（橋川）

3/未定（土性）

その後、前田、竹居、有我、平田

3. 県支部設立進捗状況

アンケート集計結果 回答 22 名/88 名
趣意書への賛成者が圧倒的に多い。

（回答ない場合は代表幹事一任とみなす）
発議書準備し中部本部より推薦、
本部総務委員会審査、本部理事会承認の
運びとなる。

4. 会員動向

伊藤恒雄氏ご逝去、香典は会へ寄付いた
だいた。藤本和弘氏退会。

5. 県支部設立が 11 月の理事会で承認され た場合、12 月以降に臨時総会開催予定

以上

平成 26 年度第 1 回役員会概要

日時：

平成 26 年 4 月 19 日(土)10：00～12：00

場所：ホテルザグランコート津西

<議事内容>

- 1.平成 26 年度総会の議事を確認した。第 7 号議案として、県支部設立に伴う三重県技術士会の発展的解消を、総会で諮ることとした。
2. 技術相談及び技術士業務紹介システムの紹介として、指導技術士の紹介等を実施した。

3.会報について、75 号を 6 月頃に発行する。

県支部設立後の名称等は、今後検討する。

4.みえテクノロジーカフェの日程を確認した。

5.見学会は、担当で検討している旨を確認した。

6.災害対策の展開について、携帯型冊子を総会にて配布することを確認した。

7.県支部の設立について、12 月の臨時総会で設立することを確認した。また、例会の参加費徴収は来年 4 月以降に実施することを確認した。

8.会員動向として、2 名入会、4 名退会出あることを確認した。

9.産官学と技術士とのセミナーについて、今後テーマ等を検討することを確認した。

以上

平成 25 年度第 4 回例会講演会レジュメ

地域の総合建設業の現状と課題について

山下弘一（建設部門）

・はじめに

地域の建設業は厳しい社会環境で生き残るために企業努力をし、公共工事を発注する行政は良質な企業を残すために様々な行政努力を重ねています。しかし、品確法の施行から地域の建設業者の外部環境は一段と厳しさが増し、現場作業部門を削減し監督業務の充実による工事受注の機会を重要視する傾向が強くなっています。今回は、地域の重要な産業基盤とされる総合建設業の現状と課題を考えてみました。

・建設者の業務別の動向

建設産業政策 2007（大転換の構造改革）では、建設産業の業態別動向を①大手総合建設業②地域の中堅・中小総合建設業③専

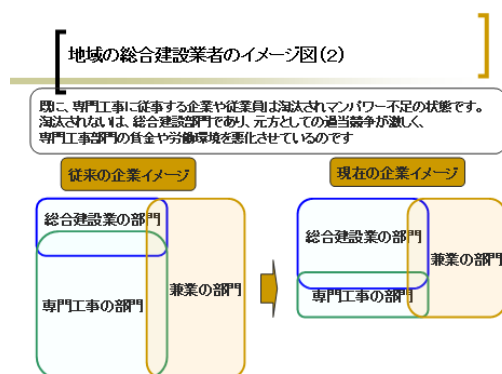
門工事業に区分して分析しています。三重県に於いても「三重県建設産業活性化プラン」を策定し取組を展開しています。両プランでは、地域の総合建設業は地域経済や雇用を支える重要な産業であり、災害対応の担い手としての位置づけになっています。しかし、地域の総合建設業は専門工事業、採石業や不動産業などを兼業し、総合建設業だけの企業形態は殆ど無いのが実態です。

・建設業政策と過当競争について

地域の建設業者の過当競争は、平成4年度の建設投資のピーク時と比較して現在は6割の減少に対し、業者数は9%しか減少していません。この為に、更なる再編・淘汰は不可避としています。しかし、建設業法の経緯からは、戦後から過当競争が存在しており、法の規制での業者数の削減は効果無く今日に至っています。

・地域の総合建設業者は増加している

平成4年度の建設投資が激減する外部環境にあつて、一般建設業認可業者（専門工事業者）が減少するのに対し、特定建設業認可業者（総合建設業）数だけが増加しています。また、現場作業員数は、平成7年から平成22年で土木工は44%、大工48%と激減するのに、監理技術者資格者保有者数（監督業務者）は64%増になっています。

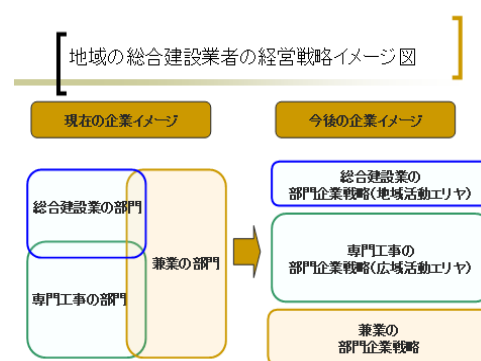


地域の建設業者は工事の受注の為に、総合建設部門を拡大し、現場作業部門を縮小させて過当競争を展開しているのが原因です。それでも地域の総合建設部門の利益率は低下傾向から好転せず、専門工事業者への工事価格を減額し、現場作業員の労務単価の切り下げに繋がっています。

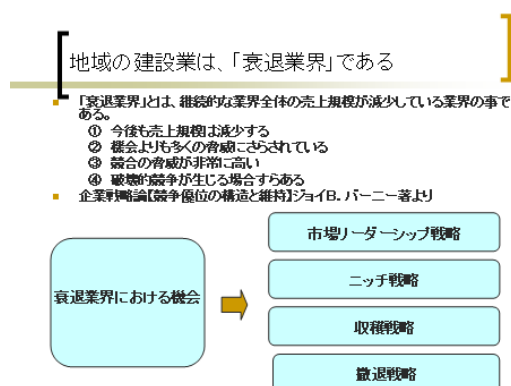
・求められる構造改革とは

① 地域の建設業者の視点では、

総合建設業と専門工事業は異なる営業形態で、同じ企業戦略にはなりません。



各部門の利益を総合建設業部門に補填し、部門を維持している可能性が高いのです。各部門別の営業損益を把握し、部門別の内部環境の「強み」と「弱み」を分析します。



今後の建設投資の需要からは、地域の中堅・中小総合建設業者として生き残れるのは、少数でしかないのは明らかです。

② 地域の行政サイドの視点では

地域の総合建設業者は、狭い営業エリアでの企業活動に対し、専門工事業は活動エリアを広げないと企業が成り立ちません。また、災害対応を地域の総合建設業者に求めても、建設機械も現場作業員も保有しない企業が多くなっています。市町村の行政単位で建設業者の育成は無理があり、地域の建設関係団体から要望があっても、地域要件が有利になる入札制度は、中長期的には建設業を衰退させる事になります。

・おわりに

地域の建設業の外部環境は厳しさを増すのは明らかです。企業経営者は、短期的な公共工事の受注活動、行政の規制や入札制度の対応への期待から脱却して、自社の部門別の営業損益を分析・把握し、強みの部門に企業投資を集中することが重要になります。経営者自らが、部門別の営業損益の把握をするのが最初の一步です。

平成 26 年度第 1 回例会講演会レジュメ (1)

環境機能と生産性を重視した 鳥獣被害防技術と森林再生技術の開発

辻秀之（建設）

近年の野生鳥獣、特にニホンシカの個体数の増大は農作物や林業被害に止まらず、森林生態系の破壊や山腹崩壊など防災上の問題にまで及んでいる。

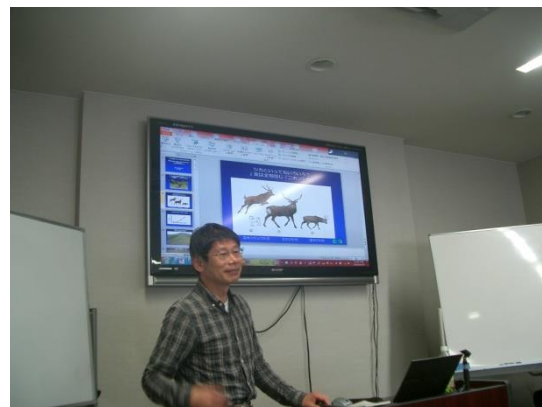


図 第 1 回例会における講演 H26-4-19 (津)

1. シカ個体数増大の理由

- ①天敵の減少
- ②50 年以上に渡るシカ保護政策
- ③林業政策
 - ・一斉皆伐による草原群落の拡大
 - ・林道整備による行動域の拡大
- ④地球温暖化
- ⑤狩猟人口の減少

2. 森林再生技術としての防鹿技術

- ①ゾーンディフェンス
1～10ha 規模の柵で造林地の外周を囲む。
シカは飛び越えなどにより柵内への侵入を試み、一旦侵入を許せば被害は大きい。
- ②マンディフェンス
ラス金網やネット等で単木を保護する。苗木以外の林床植生の面的保護は不可能。
- ③パッチディフェンス
100 m²/箇所程度の小規模防鹿柵を造林地内に点在させる。

3. パッチディフェンスの有効性

三重県大台町のシカ食害地における施工事例（2010 年～）の経過では、パッチディフェンス内(最大 24m×24m)へのシカの侵入は認められていない。また森林植生の種数-面積曲線事例を参考に、造林地全体の面積

に対して 1/4 程度のパッチ合計面積を確保すれば、造林地全体で保全可能なフロラ（植物相）の 3/4 を保全できる可能性が示唆された。

平成 26 年度第 1 回例会講演会レジュメ (2)

講演題目： 持続可能な交通まちづくり

講師： 新田保次(にったやすつぐ)校長
(独) 国立高等専門学校機構
鈴鹿工業高等専門学校
大阪大学名誉教授

■要約

交通からの持続可能なまちづくりへのアプローチを、持続可能性の視点を意識しながら、お話しされた。その際、特に移動と速度、そして人間発達と社会発展について考察された。



図 1 新田校長による特別講演 4 月 19 日 津

■ストロー効果

「道路、鉄道などの幹線交通の整備によって、速達性が高まり、ある地域の人、モノ等が、一方的に（双方向的ではない）、より規模の大きい地域に吸い取られる現象」の事であるが、「高速化→経済発展→社会発展→人々が、より豊かに・より幸せに」の流れは本当なのか？ 反面、限界集落、医療・

買い物難民・・・を発生させた。中央リニア新幹線をどうみたらよいか？

■速度とふれあい度（図 2）

低速交通から広がる「ふれあい（愛）文化」にみられるように、

ふれあい：人と、自然と、まちと、宇宙と・・・

五感の刺激、思惟の深まり

→ふれあい文化の創造へ繋がり得る。

昔あったふれあい文化：縁側文化など

■情報の速度も同じ

低速情報でふれ愛文化を

手紙→電話→メール⇒手紙も重要である。

書くこと（打つのではない）、話すこと、そして、会うこと！

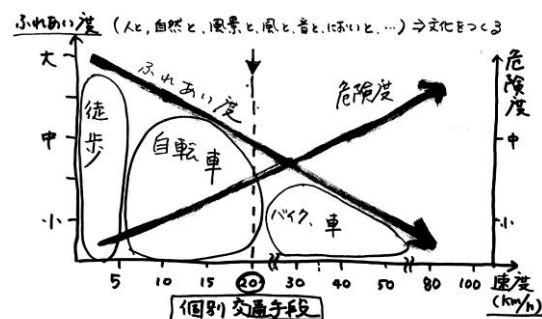


図 2 速度とふれあい度（個別交通）

■サイクルタウン化作戦（図 3）

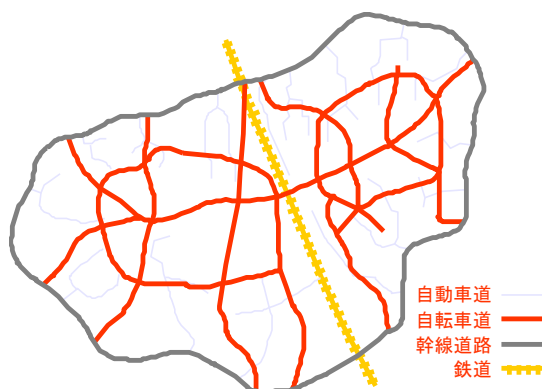


図 3 サイクルタウン

□まちの骨格を変える！

- ・道路断面の変更→道路空間の再配分手法
- ・道路ネットワークの変更→自転車ネットワークの形成

□交通システムを変える

- ・レンタサイクルシステム
- ・利用時間対応型駐輪場

□人々の意識を変え、行動を変える

- ・環境意識
- ・健康意識
- ・コスト意識

■まとめ

□身近な交通まちづくり

低速交通重視のまちづくり

- ・バリアフリー
- ・コミュニティバス、移送サービス
- ・パーソナルモビリティ、自転車

□大きな交通地域づくり

ストロー効果に打ち勝つために逆ストロー効果を探す。

- ・道路・鉄道の見直し

→ローカルな価値の付加

- ・高速道路・新幹線の有効活用（吸引用）

◆緊急を要するのは、既存インフラ（特に橋梁、トンネル）の改修（あるいは廃棄）

新田先生は、岡山北部の歴史ある地方のご出身で、大阪での学究生活を経て三重県へ赴任されたが、現代社会の問題点を交通の側面から切り出され街づくりに生かす提案をされた。

（文責 平田賢太郎）

平成25年度のIT講座振り返り

～SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）概要～

情報工学部門 橋川 勝規

2014年1月25日にIT講座を開催しました。テーマは、普及の目覚ましいSNSについてです。

1. SNSの歴史、動向と統計分析

◆SNS（Social Networking Service）

広義には、社会的ネットワークの構築できるサービスやウェブサイトを言います。

狭義には、人と人のつながりを促進・サポートするコミュニティ型の会員制サービスあるいはそういったサービスを提供するウェブサイトのことを総称しています。最近は後者として広く活用されています。

SNSの主たる目的は、バーチャル上での人と人とのコミュニケーションを図ることになります。

SNSの起源は“六次の隔たり理論”と言われています。“六次の隔たり理論”とは、「人は自分の知り合いを6人以上介すと世界中の人々と間接的な知り合いになることができる」という仮説です。

◆歴史と動向

SNSの歴史は、世界動向として1994年に初期のSNSが登場し、日本では1996年に登場しています。1980年代はパソコン通信でしたが、1990年代に入り電子メールが普及し始め、通信インフラ（インターネット環境）が整い始めたことを契機にSNSが登場し、ブロードバンド環境が安価で利用できるようになってから急速に普及してきたことが分かります。

日本では、2004年ごろからSNSやブログの利用者が急激に増加してきました。無料ブログサイトの登場したことにより、

個人でも気軽にブログを立ち上げることができるようになったことが背景にあります。

◆SNSの利用目的

ブログやSNSの利用目的として「自分に関する情報の受発信」が上げられます。一方、Twitterは「自分に関する情報発信の場」として使われていることが特徴的です。

◆コミュニケーションツールのメリット

ブログ：「不特定多数との情報受発信」

SNS：「共通の興味、関心を持つ人とのつながり」

Twitter：「気軽に、簡単に、制限された文字数で情報を簡潔に受発信できる」
利用者は上手く使い分けていることが分かります。

2. 代表的なSNSの概要

◆Facebookとは

・名前の由来：アメリカの一部大学が学生間の交流を促すために入学した年に提供している本の通称に由来

・2004年にハーバード大学学生が創業。当初は同大学学生に限定

・2012年9月、アクティブユーザ数が10億を超える。

◆Twitterとは

・140文字以内の「ツイート」と称される短文を投稿できる情報サービス

・ミニブログ、マイクロブログといったカテゴリーに分類

・「Twitter」は英語で「さえずり・興奮」「無駄話」といった意味、日本では「つぶやき」と意識している。

◆LINEとは

・携帯電話（スマホなど）、パソコン向けのインターネット電話やテキストによるチャットなどのリアルタイムのコミュニケーション

を行うためのインスタントメッセージャー

・ゲームなどのアプリも提供

・日本発

◆国内におけるある統計から

最もよく使うSNSアプリは「LINE」、手軽さから頻繁に利用される「LINE」は、その便利さゆえに連絡頻度が過剰となり、疲れを感じる人もいます。

3. まとめ

<よいこと>

◎コミュニケーションツールとして便利に使える

◎情報発信が手軽にできるようになった

◎地理的な距離感を感じることなく、コミュニケーションがとれる

◎世界中の人たちと繋がることできる

◎便利、手軽、気軽

◎リアルな世界では困難なこともネットでは実現できる（つながり、出会い）

※いろいろないいことがたくさんある※

<よくないこと>

×いじめ

×誹謗中傷

×間違った目立ちたがり、非常識な投稿

×誤った情報を鵜呑みに

×リアルなコミュニケーションが苦手

×依存症

×詐欺

×事件

※たくさんの良くないことが起きている※

以上のことから、やはり「コンピューター、情報、メディアに関するリテラシー教育の必要性」を強く感じます。

○便利な道具として

- 正しく理解し
- 正しく使うこと
- 犯罪やいじめは昔からなくなることはない（時代によって手法が変わるだけ。決してSNSのせいでいじめが起きているのではない）
- 道具を使う人のモラル、リテラシー次第

上手く使って最大限“良さ”を体感してください。

以上

会員近況報告

池田 和人（化学・総合技術監理）



技術士の資格を取得して早5年が経ちました。技術士の受験勉強は、単に資格の取得という成果だけでなく、無知であった自身の教養の幅を

広げ、勉強の楽しさを教えてくれました。技術士に合格した後も暇を見つけて簿記や経済などを勉強し、最近時は時流に乗って憲法の勉強をしています。長年技術者として働いてきた自身にとり憲法学的な発想は実に新鮮であり、技術一辺倒の発想が社会一般から見て如何に特殊であるかを思い知った次第です。

近代憲法の発祥は18世紀終盤にフランスやアメリカで起こった市民革命にさかのぼります。暴挙を奮っていた専制君主から自由と平等を勝ち取るために市民が立ち上が

り、「人は生まれながらにして自由かつ平等で生来の権利を持っている」というロックやルソーの思想が近代憲法の礎になったわけですね。そしてその後、こうした「国家からの自由」である自由権は時代を経て変貌し、市民は参政権すなわち「国家への自由」を求めるようになり、更に20世紀になってからは、自由主義社会により社会的・経済的弱者が生まれ、社会権すなわち「国家による自由」を求めるようになりました。世界の近代憲法は自由権を根本規範としながら参政権や社会権を備えています。現在日本では集団的自衛権に係る論争が繰り広げられ、これに伴い立憲主義の在り方が問われています。集団的自衛権の適否につきましては意見を差し控えさせていただきますが、過去の英知たちが行ってきたように、我々国民自らが憲法制定権者として主体的に憲法そして立憲主義の在り方を考えていく必要があるように思います。

さて、話は変わりますが、私は化学メーカーで主に化学プラントの設計・建設・製造に携わってきました。現在は合成ゴム製造技術の海外ライセンスに関わっております。海外に技術ライセンスを提供して化学プラントを建設する場合、多様な局面で交渉が必要になります。例えばライセンス条件など各種契約締結のための交渉、プラント設計条件に関する交渉、プラント建設の入札・発注条件に関する交渉、詳細設計・建設中の各種交渉、プラント立上げや保証生産に関する交渉など、交渉が必要となる局面を挙げれば枚挙にいとまがありません。海外との交渉を進める上では、自国の文化を物差しにした国粋主義的な発想を捨て、

まずは相手国の歴史・文化を理解することから始まると思います。そして相手国に愛される人間性と正当かつ公平な論理力が必要だと感じます。交渉では必ずしもWIN・WINの関係が成立するとは限らず、時に困難なトレードオフに遭遇することもあります。今後謙虚な姿勢で様々なことを学び、自身の仕事力向上に精一杯励みたいと思っております。

最後に、技術士・技術士補の皆様の今後の大いなるご活躍と技術士会の発展を祈念致しまして、私の近況報告とさせていただきます。

木本 正人（技術士補（化学））



1. 技術士会での活動

私は、技術士と言う資格があることを大学のJABEEプログラムの説明会で知りました。卒業後、2008年度に技術士補の登録を行い、同時期に三重県技術士会に入会しました。

した。

技術士を目指すことで、自己の知識と経験の向上に何かプラスに働くと思ひ日々鍛錬しています。

最近、都合上、実活動を行う時間が限られていますが、時間の許す限り、実際に、先輩技術士の方々と活動でき、仕事へのアプローチ方法や考え方などを肌で感じることに刺激になっています。そんな技術士会の活動から自己技術の向上を図っています。国際的に認められる資格として、グローバ

ルに活躍できる人材になる第一歩として確実に取得したいと考えています。

2 技術士の資格取得と夢

まずは、技術士の資格を取得する。これが私の夢というか、目標です。三重県技術士会の活動に参加し、パワフルな先輩の勢いを垣間見ることでより一層熱が入っています。また、異分野の専門的かつ高度な議論を行える環境に参加できることもよい機会だと考えています。

次に、資格を生かしながらグローバルな技術者を目指すことが夢です。手段は様々に考えられるが、技術士会のフィールドでも実現出来るのではないかと模索しています。また、日本の技術力強化のために子どもたちの理科離れを阻止したい。自身が持つものづくりへの探究心と興味を次世代に伝え、優秀な技術者を育成できるように努力したいと考えている。将来的に自分と関わった人たちが最新技術の先端で戦っていけたら本望です。

3 近況に関して

三重の四日市と桑名に住み、すでに七年が過ぎようとしています。三重には伊勢神宮を中心に古の文化があります。一方、四日市を中心に桑名でも工業が盛んです。工場地帯が広がり休む暇もなくものづくりが行われています。また、三重県には最新技術や古き歴史を重んじた独特の雰囲気を持っている地域だと感じています。四日市では万古焼などの産業も盛んです。桑名では、鉄を使った産業も古くから沢山あります。古きことと（原理原則）を学び、新しいことを生み出すためにも、自分自身基盤を安定化させるためにSTEPを刻みながら自助努力を行なっています。最近、甲種危険

物取扱の試験やビジネスキャリア検定などの自己啓発に加えて、TOEIC や英会話の国際人として、活躍できるように計画的に自己研磨しています。

4 最後に

三重県技術士会の発展と向上をイメージしながら、今後も活動を続け、若手技術者からもボトムアップの姿勢で活性化していく事を切に願っています。共に活動できる若手を増やすべく努力していきたいと思います。

今後の行事予定など

★みえテクノロジーカフェ★

第10回

日程：7月27日（日）

場所：四日市市内

第11回

日程：9月28日（日）

場所：四日市市内

★平成26年度第2回役員会・例会★

日程：7月19日（土）

場所：津市内

三重県技術士会

「技術士みえ」発行及び責任者

平田 賢太郎（化学）

〒510-0954 三重県四日市市采女町430-3

平田技術士・労働安全コンサルタント事務所

プロセスインテグレーション㈱代表

TEL&FAX 059-346-8818

広報委員 西方 伸広（機械）

土性 弘明（電気電子）